

変則マルチアンプシステム(6)

—AXIOM80 の置き換え—

1. 始めに

前報(5)では、JBL4350A の 250Hz~1.25KHz のミッドバスからツイーター領域を EMI DLS259 に置き換えてみましたが、今回は Goodman の AXIOM80 に置き換えてみます。

2. ミッドバスからツイーター領域の置き換えの試聴方法

JBL4350A のマルチアンプシステムのダブルウーファーとスーパーツイーターをそのまま使って、250Hz~1.25KHz のミッドバスからツイーター領域は現在の 45pp アンプで Goodman の AXIOM80 を駆動します。従って、AXIOM80 は 250Hz~1.25KHz の帯域のみを使用することになります。

入力信号のルートとしては現在の標準となっている次のルートを使用します。

EMT981 (44.1KHz) /BZT-9000→ CCV-5 (96KHz) →SWD-DA10 (192KHz)
→DA-3000 (44.1KHz) →MYTEK DIGITAL 192-DSD

ここで、EMT981 には GPS-777 から 44.1KHz のクロックを、CCV-5 には 96KHz のクロックを、SWD-DA10 には 192KHz のクロックを供給します。また DA-3000 には ABS-7777 から 44.1KHz のクロックを供給します。

3. ミッドバスからツイーター領域の置き換えの試聴結果

今回は AXIOM80 を用いて JBL4350A のマルチアンプシステムの 250Hz~1.25KHz のミッドバスからツイーター領域を受け持たせてみたわけで、前報(2)では AXIOM80 のアンプは PX25 シングルでしたが、今回は JBL4350A のマルチアンプシステムの 250Hz~1.25KHz のミッドバスからツイーター領域を受け持つ 45pp アンプをそのまま使用しています。こういった変則システムは組み合わせるスピーカーの音色の違いなどで違和感が残るのが通例ですが、前報(2)と同様に意外に馴染がいいというのが第一印象です。

AXIOM80 の側からの変化を述べますと、AXIOM80 の立ち上がりの良さはそのままに、中高域のエネルギー過多の個性が、JBL4350A のダブルウーファーの低音の響きや沈みこみによってバランスされ、AXIOM80 のグレードが上がったような音になったと言えます。

JBL4350A のマルチアンプシステムの側からの変化を述べますと、JBL4350A の個性に近い立ち上がりの良さの雰囲気が残る、ある意味、JBL の好ましい姿でもある

ように感じます。

4. まとめ

中高域の切れ味みたいなものが相通っている JBL4350A と AXIOM80 ですので、AXIOM80 の欠点も隠されて新しい個性のシステムになったと言えます。

以上